



1



2

今、注目の「イクメン
子育てする男性」

3



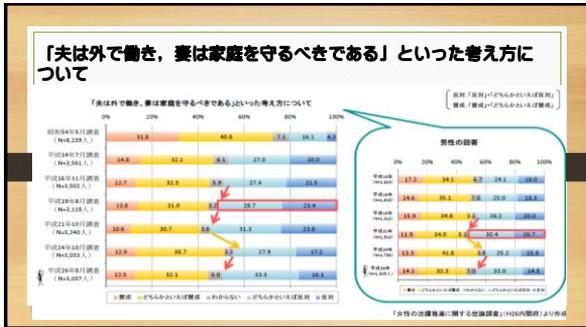
4

学習問題はこれだ！
 ○日本の夫が家事・育児に関わる時間を増やすにはどうすればよいのだろう

5

考えよう！
 なぜ、日本の男性は育児に関わる時間が少ないのだろうか？

6



7

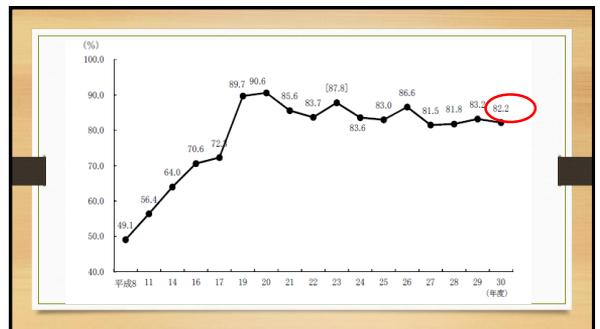
育児休業制度とは

- ・子が1歳（一定の場合は、最長で2歳）に達するまで（父母ともに育児休業を取得する場合は、子が1歳2か月に達するまでの間の1年間＜パパ・ママ育休プラス＞）、申出により育児休業の取得が可能
- また、産後8週間以内の期間に育児休業を取得した場合は、特別な事情がなくても申出により再度の育児休業取得が可能＜パパ休暇＞
- ※一定の条件を満たした有期契約労働者も取得可能。

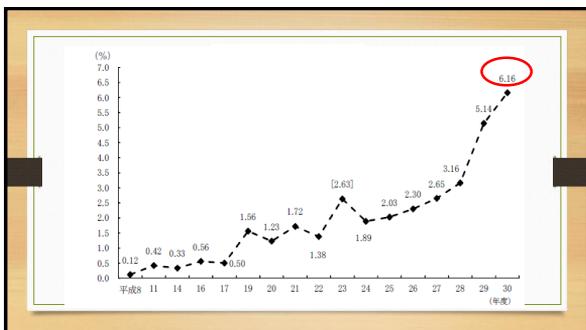
8

男女別の「育児休業取得率の変化」を見てみよう！

9



10



11

日本の男性は育児休業取得率が女性に比べてとても低い！

12

日本の男性の育児休業取得率を上げるためには!?
その方策を考えよう。

13

男性・家族・職場・国や地方公共団体それぞれの立場で考えてみよう。

14

実際の実践を紹介！

15

厚生労働省の取組

育てる男が、家族を変える。社会が動く。



16

イクメンの体験談

長女の妊娠がわかってから家族に私の育児休業検討について話すと、まさかの大反対を受け、肯定してくれる人はいませんでした。また、職場でも業務都合上、育児休業は困難な状況に陥りました。

当初なぜ家族に反対をされるのか私は理解できませんでした。しかし、原因は「未経験の選択に対する不安」にあるとわかってきました。そこから私は考えを変えて、「育児休業を取る」ことにこだわらず、「家族の不安」を解消することを第一に考えました。

17

家事育児に私に任せても大丈夫か? という不安に対しては、まだ妻が元気なうちに、土日に一度家事を全部私がやってみました。そして、妻に不足部分を指導してもらいながら、妻のやり方を覚えました。

仕事に支障が出るのでは? という不安に対しては、いつ、どのぐらいの休むのが最適なのかを妻と話し合い、「育児休業計画」を作成しました。妊娠5ヶ月をすぎるところにはこの計画を職場で共有し、組織としてフォローができるよう調整しました。結局飛び石で合計2週間以上のお休みを頂きながらも仕事への影響を最小限にできました。

18

この取り組みの結果、妻はかなり安心してくれました。おかげで、トラブルもなく長女を迎えることができました。反対していた家族からも、理解をいただくこともできました。単に“育児休業を取得するだけ”という選択より、より良い選択ができたと思います。

この経験から私は、“家族の不安を解消すること”が、父親が達成すべきミッションなのだと感じました。そして、それに伴った選択は、家族や職場を良い方向へ導くと確信しています。同じような境遇な方にもこのような前例があれば、より“家族の不安”は軽減されると思います今回の投稿に至りました。これをきっかけに少しでも男性の育児参加が当たり前になる社会になってほしいと思います。

19

動画 イクメンプロジェクトより

20

STAFF MEMBER GROUP



1分間でわかるイクメンプロジェクト

21



今すぐ実践！ 男性の育児休業

～経営者・管理職・従業員の立場から～

PR版

22

男性も育児休業を取りやすくするために大切なことは何だろうか。自分の考えをまとめてみよう。

23